

【 事 例 】

下表の症例について生化学・免疫検査結果より問題点を検証し、次に実施すべき検査(手法など)を
 考査して下さい。

【分析機】

生化学項目、CRP、TRLA : 汎用多項目自動分析機 TBA200FR

HBsAg、HBsAb、HCV : 免疫化学発光専用分析機 ARCHITECT

患者属性 : 36歳 男性

【妨害物質の影響】

検査種目 : 術前検査

干渉チェックAプラスを用いた溶血、ビリルビン、乳ビによる影響は、ほとんど認められ

生化学検査	測定値	基準値	単位	免疫検査	測定値	基準値	測定法
TP	6.5	6.9-8.2	g/dl	CRP	0.16 mg/dl	<0.4	ラテックス比濁法
ALB	4.1	3.8-5.1	g/dl	HBsAg	0.1	下記	免疫化学発光法
Na	136	135-145	mEq/l	HBsAb	3.0	下記	免疫化学発光法
K	5.0	3.5-5.0	mEq/l	HCV	0.1	下記	免疫化学発光法
Cl	105	98-107	mEq/l	RPRテスト	(-)	下記	用手法(目視判定)
BUN	9	10.0-20.0	mg/dl	TPLA	78	下記	ラテックス比濁法
CRE	0.4	0.4-1.1	mg/dl				
AST	67	13-33	IU/l				
ALT	43	8-42	IU/l	感染症項目判定参考値表			
CK	221	20-200	IU/l	HBsAg	2.0 COI(カットオフインデックス値)		
LDH	287	116-233	IU/l	HBsAb	20.0 COI		
TC	193	150-218	mg/dl	HCV	1.0 COI		
TG	870	50-140	mg/dl	RPRテスト	1倍(-)		
TBil	1.6	0.2-1.2	mg/dl	TPLA	判定保留域 20 ~ 30		
溶血	(-)						
乳ビ	(4+)						

【 質問 】

梅毒検査法の一つである脂質抗原を用いるRPRテストは、**陰性**。
もう一方のTPを抗原として用いているTPLA法は、**陽性**。
あなたは、この結果に対してどのような判定をしますか？
問1～6にお答えください。

問1) RPRテストに関し、偽陰性を疑う

YES **NO**

問2) TPHA法に関し、偽陽性を疑う

YES **NO**

問3) 過去に梅毒に感染したが治療済みの患者と考える。

YES **NO**

問4) 問1、2で **YES** と答えられた方は、次に何を行いますか。

問5) 問4の動機となる要因を記入して下さい。

問6) この症例患者についての梅毒検査結果は？

陽性 **過去感染歴あり** **判定保留** **陰性**

症例2

提供者

今西数彦 和歌山県立医科大学附属病院